



外国出張報告書

平成 27 年 3 月 7 日

1. 出張国名 ブルキナファソ
2. 出張月 平成 27 年 1 月～2 月
3. 出張目的 改良かまどに係る CDM 方法論の現地検証調査：A

4. 成果の概要

CDM 方法論に基づくモニタリング手法を確認するため、前回調査（2014 年 10 月）で配布した改良かまど（FA）111 個について、モニタリングのプレテストを行った。

あわせて、FA の使用状況を把握した。調査は、配布した FA111 個全てを対象とした。

調査方法は、事前に作成したモニタリング調査票を用いた聞き取りである。

調査項目は、CDM 方法論では 2 年毎の使用個数及び年間当たり使用日数のモニタリングが義務づけられていることから、使用者氏名、FA 使用時の調理名、週当たり使用日数、製造番号確認、使用状況、使用者の意見とした。

使用状況は、約 8 割が使用を継続していたが、一部破損が生じていることが分かり、今後の課題となった。モニタリングの手法としては、事前に準備した調査票によって容易にデータ収集ができることが確認できた。

本調査にかかる情報共有及びブルキナファソ政府からの助言を得ることによって本調査の有効性を高めることを目的に、JIRCAS チーム及びブルキナファソ行政関係機関代表者からなる技術科学委員会が設置されており、2/16 に環境省において開催した。

JIRCAS より調査の経過を報告し、これについてブルキナファソ関係機関と有意義な意見交換を行うことができた。